

海原純子×セリーヌ・ピーターソン 音楽のレガシーが紡ぐ、 新たな絆

海原純子●インタビュー／文

Junko Umihara Jazz Dialogues

海原純子

Junko Umihara

うみはら・じゅんこ 神奈川県生まれ。東京慈恵会医科大学卒業。医学博士、心療内科医、産業医として勤務する傍ら、数多くの著作を執筆、さらにジャズシンガーとしても活躍し、都内各地のジャズクラブ、イベントなどに出演し人気を博している。ジャズアルバム『ロンド』『Then&Now』が発売中。新聞・雑誌など連載も多数。近著に「こころの見方」(毎日新聞出版)「男はなぜこんなに苦しいのか」(朝日新聞出版)「幸福力・幸せを生み出す方法」(創出版社)、こころの深呼吸(婦人之友社)、「大人の生き方 大人の死に方」(毎日文庫)などがある。

#6

セリーヌ・ピーターソン Celine Peterson

オスカー・ピーターソン(p)の末娘で音楽プロデューサー。これまでジャズ・アット・リンカーン・センター、モントリオール・ジャズ・フェスティバル、ブラボー・ナイアガラ!芸術祭、トロントのケンジントン・マーケット・ジャズ・フェスティバル、Voices of Freedom コンサートなど多くの世界的なジャズイベント/フェスティバルでプロデュースを手掛け、またダーラム、カレッジやシカゴ芸術アカデミーなどでさまざまな学校でワークショップを行っている。

来年、ピアニストで作曲家のオスカー・ピーターソンは生誕100年を迎える。彼の業績が再び注目される中、心療内科医で作家・ジャズシンガー海原純子が、彼の末娘で音楽プロデューサーのセリーヌ・ピーターソンにお話を伺った。彼女との対談は、シンガーのポール・マリナロさんを介した偶然のつながりから実現。セリーヌさんは父オスカーの影響を受け、若手音楽家たちを支援する活動に力を入れている。今回は、音楽と人との絆が織り成す温かい物語が語られた。

来年はピアニストで作曲家のオスカー・ピーターソンの生誕100年。今また新たにその業績が話題になっていますが、オスカーさんの末娘で音楽プロデューサーのセリーヌ・ピーターソンさんに先日オンラインでお話を伺いました。セリーヌさんとのつながりは偶然の賜物としかいいようがありません。

昨年2月、私は数年来注目していて、いつか私の作ったオリジナルを歌ってほしい、と思っていたシンガーのポール・マリナロのライブがあると聞いてシカゴに出かけました。日本のジャズ愛好家にポールを知ってほしくて、ライブ後にインタビューを敢行。取材内容をジャズインの前身であるジャズジャパンに掲載したという経緯があります。取材の中で、ポールは数年前、大

腸憩室炎の破裂で敗血症を起こし死の淵をさまよったのですが、その時親身になりクラウドファンディングを立ち上げて助けてくれたのが親友のセリーヌさん、セリーヌさんは命の恩人だと話してくれました。ポールさんは私が記事を書いたジャズジャパンを当時セリーヌさんに見せていたので、今回はそうしたつながりでセリーヌさんとの対談が実現しました。

オスカー・ピーターソン生誕100年
日本との絆

海原 セリーヌさん、はじめまして。ポールさんからセリーヌさ